

校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

平成31年 3月 4日 (月) 南日本新聞

南日本新聞の「若い目」にアイガモ解体実習について掲載されたので紹介します。

ひろば

若い目特集

「いただきます」の重み知った

薩摩中央高1年

市来 葵

初めて生き物を解体した。私たちはアイガモの解体を行った。生まれてから大切に育てていたアイガモを絞めなければならぬ。め、とても胸が痛くなった。捕まえて足をひもで縛り逆さにつるした時に、自然

と気が引き締まった。血が

一気に出てきた時は目を背けたくなった。その後羽をむしり取り、各部位に肉を分けた。時間の流れがとても速く感じた。最初は胸が痛かったが、あつという間にいつも見慣れている肉になった。1週間肉を寝かせて、調

理した。アイガモといっしょに私たちが育てたアイガモ米でおにぎりをつくり、肉を炒め、そしてアイガモのガラでだしを取り野菜を入れてスープをつくった。どれもとてもおいしく、よく箸が進んだ。

重みを知ることができた。この経験が無駄にならないよう、食事の時「食べる」こと、命の大切さを忘れないようにしたい。

(さつま町)